

## 卒業後2年目の保育職就職者の実態と意識

——本校保育科平成5年度卒業生を対象に——

### 【保育科学生におけるライフスタイルの変化 II】

天野 珠子 福川 須美

The Work Conditions and The Self-Images

of Preschool Teachers; Two Years after Graduated from Our College

Tamako AMANO Sumi FUKUKAWA

#### はじめに

本研究は1992年より、保育科教員有志により継続されている共同研究である。過去3年間在学生の意識調査を入学時と卒業時に行なってきた。これは現在も継続中である。しかし3年間の学生の意識には、共通する点が多く(本学紀要第26、27、28号参照)長期にわたる継続調査をしていく予定のため、今回は、第1回調査(1992年度)を実施した学生が卒業して2年目を迎えているのを機にライフスタイルの変化を卒業後の意識調査にスポットを当て、発表することにした。

進路名簿を元に卒業時に保育職を選んだと思われる学生(180名中129名)に、現状と意識の調査を実施し、在学中の意識との差や現場の実態、悩みなどをアンケート調査して、学生の指導や講義内容の参考とし、保育科の質を高めたい意図のためである。また、就職難の今日、在学中の学生の就職活動の参考になる情報提供も得られればと思い、そのような調査も合わせて追加することにした。

本科において、卒業生に対するこのような追跡調査は初めての試みである。我々の意図する研究のねらいがどのくらい達成されるかは、未知数であるがこの結果をもとに今後も調査内容の改良を重ね、卒業後5年目、10年目など、実数は減少するであろうが、意識変化を追っていきたいと思っている。

#### I 研究目的

1. 卒業後の動向調査(卒業後保育職を選んだ者が、2年目に同じ職場に継続勤務しているかどうか、また転職、退職などの数や理由について)
2. 勤務園の実状や雇用条件についての意識
3. 勤務2年目の保育についての意識
4. 保育者としての自己自身について、現状と将来に対する意識
5. 卒業して、保育科に望むことや在學生へのアドバイス
6. 保育者イメージと自己自身のイメージの変化(この調査は入学時と卒業時のデータと比較するため回収数が少なければ、次年度分を追加して結果を出す予定)

以上の目的を軸に、単に集計のみにとどまらず、一人一人のコメントもなるべく拾いきめ細かく意識の変化を追ってみたい。

「卒業後の仕事に関するアンケート調査」の枠組み  
調査対象者 平成5年度卒業生のうち保育園、幼稚園、施設など保育職に就職した者(134名であるが、住所等の事情で調査票送付対象者は129名)

調査時期 平成7年9月

調査方法 対象者の自宅に調査票を郵送し、回答を返送してもらった。

調査票回収率 66名/129名(回収率51.2%)

調査内容 調査票別掲

## 1 調査結果について

### (1) 卒業時の就職先

まず、回答者が卒業後すぐに勤務した就職先であるが、町立幼稚園1名、私立幼稚園38名、公立保育園4名、私立保育園21名、養護施設1名、院内保育所1名となっている。(図-1)平成5年度の卒業生全体の就職先・進路は、幼稚園86名(内町立1名)、保育園45名(内公立6名)、施設3名、一般企業・公務員30名、進学その他23名であった。(図-2)母集団に比べて回答者は幼稚園就職者が5%少なく、保育園就職者が5%多くなっている。

採用の条件はアルバイトから正規へが1名のみで、幼稚園、保育園、養護施設とも正規職員としての採用がほぼ全員の65名であった。

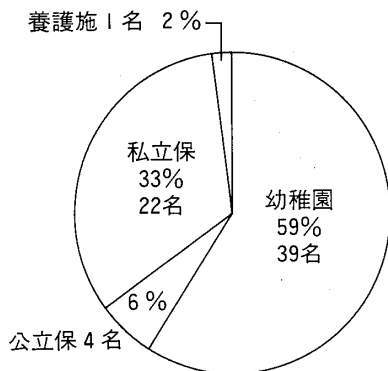


図-1 回答者の就職先

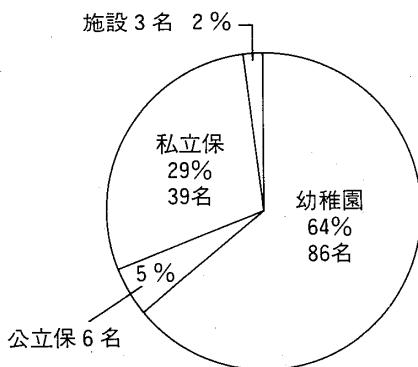


図-2 卒業生の就職先(保育職のみ)

### (2) 卒業後の勤務継続と転職の状況

卒業時に就職した園に現在も勤務しているかについて「はい」と答えたのが57名、「いいえ」が9名であった。回答者66名中約86%が仕事を継続しており、卒業後2年目でもあることから、まだ結婚退職や出産退職者は無かった。「いいえ」と答えた9名のうち、姉妹園への転園や公立の採用待ちアルバイトか

ら他市公立への就職の2名を除く7名の内訳をみると、園の方針と合わなかったり、体力も続かないなどの理由で退職したり他の幼稚園や保育園に転園した者が5名いる。

すなわち幼稚園に就職したものの休みが取りにくかったため、体調を崩しても病院に行けず、悪化して長期入院、その後の通院と、一人担任では休暇がままならないため、複数担任で休みの保障がある園へ移った者、障害児施設に就職しながら(卒業式以前の3月に入職式が行われ、勤務を開始したとの記述に驚くが)、施設職員への疑問から1カ月もたたぬ間に退職し、公立保育園の産休代替として働き、その後幼稚園に就職した者である。

残る3名は健康を害して保育職から離れ、一般企業等へ転職した者2名、腰を痛める等体力的に続かず退職したままの者1名である。以上のような結果から今なお保育の職場がいかに体力の要る、きつい職場であるかを改めて考えさせられる。(図-3)

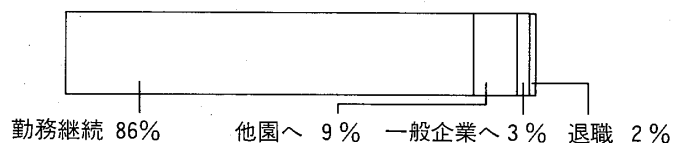


図-3 卒業後の転職状況

しかも57名の勤務を継続している卒業生たちが勤務園の労働条件や保育方針、人間関係等、職場に満足しているかという点必ずしもそうではない。以下、卒業時に勤務した園についての回答の内容を考察しながら、卒業して2年目の本校保育科卒業生たちが置かれている状況を明らかにしたいと思う。

### (3) 勤務条件について

勤務条件に関する質問では①給料、手当について②休暇について③仕事の量について④仕事量と職員数のバランスについて等を質問した。

#### ①給料、賞与、手当について

まず給料、手当などに関しては、「満足」が35名(53%)、「やや不満」が19名(29%)「不満」が12名(18%)であり、半数近くが不満を持っていることがわかる。不満の内容についての自由記述回答をまとめると、給料に関しては「非常に少ない」「少ない」「仕事時間や量の割りに少ない」「基本給を上げて欲しい」など、ともかく「低い」と記述している者が15名で不満を感じている者の約半数を占める。その

他「昇給が少ない」(5名)や「雇用時の条件と異なる」「特例保母にもかかわらず平常勤務と同じ」などの不満があった。

賞与に関しては「少ない」が8名、「求人票と違う」「経営状態の都合で支給されなかった」等の回答があった。

手当てに関しては残業手当てがないことについての不満が高く(10名)、手当てが「少ない」(4名)ことや、土・日や夜間勤務の手当てがない(1名)や交通費が足りない、住宅手当てがない、クラス費が少なく自己負担がでる等の記述があった。「その他」の不満としては「遠足代、牛乳代を払う」や「意味の分からない積立金」等が挙げられていた。なかには園児数の減少(2クラスのみ45名の園児)で、経営状態の悪化が給料や賞与、手当てなどに及び、雇用時の条件と異なっていると指摘があった。

#### ② 休暇について

休暇については「満足」が33名(50%)、「やや不満」が23名(35%)、「不満」が7名(11%)、N.A.3名で、満足と不満が相半ばしている。具体的には「病気で休めない」(代替者がいないため)「休暇がとりにくい」「土曜出勤や休日出勤が多い」「代休がない」「夏休みが1~2日しかない」などの不満が多く記述され、保育職場では休暇がなかなか取りにくい実態が明らかにされているといえよう。

#### ③ 仕事の量について

仕事の量については「適当」と答えたのは9名(私立幼稚園2名、私立保育園7名)と14%に過ぎず、「忙しい時もあるがまあまあ」が37名(私立幼稚園等24名、私立保育園8名、公立保育園3名、養護施設1名、院内保育所1名)で56%、「忙しすぎる」が20名(私立幼稚園12名、私立保育園6名、公立幼稚園1名、公立保育園1名)で30%あり、忙しい理由としては「残業が多い。朝が早いなど」が17名、「家に持ち帰る仕事が多い」が12名、その他としては「何でも手作りでその分仕事が多い」(私立保育園)、「掃除、お茶などにも細かいマニュアルがあり、神経的疲労にもつながる」(私立幼稚園)、「掃除の時間が長く、他の仕事が終わらず残業ばかり」(私立幼稚園)などである。回答数との比率で見ると、私立幼稚園も私立保育園も忙しいと感じていることにはあまり大差がないように思われるが、強いていえば私立幼稚園ももっとも「忙しい」と答えた率が高かったと

いえよう。

#### ④ 仕事量と職員のバランスについて

仕事量と職員数のバランスでは、「ちょうど良いと思う」は28名(42.4%)、「人手不足だと思う」は24名(36.4%)、「わからない」は12名(18.2%)、その他に「保母が余っている」が1名あった。

人手不足の理由を記述してもらったが、「行事が多い」「行事の時困る」「クラスの子どもの数が多い(33名に担任1名)」「3~4歳混合クラスで担任一人で辛い」「1~2年目の保育者の負担が多い」「障害児もいて大変」「フリーの保育者がいない」「保母がひとりでも休むと困る」「何時も時間に追われている」「休みをとるため、勤務に入る保育者数が少なくなる日があり、人手が足りない」「作り物が多すぎる」「事務・飼育などが大変」等さまざまな回答があった。

#### (4) 健康について

以上のような状態の勤務のなかで健康を害する卒業生も多いといわざるを得ない。卒業後の健康について質問したところ「卒業してから現在まで健康」と答えたのは30名と46%にすぎない。「就職後健康を害した」と答えた卒業生は12名と18%にのぼる。そこまできなくとも「疲れたと感じることや、調子の悪い事が多くなった」が24名(36%)である。サンプル数が少ないので一般化は出来ないが、保育の仕事が肉体的にも精神的にも現在の卒業生たちにとっては、かなり苛酷であると推測される。(図-4)

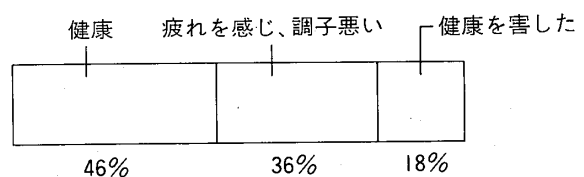


図-4 卒業後の健康状態

#### (5) 教職員の異動について

教職員の異動の状況については「1~3年で入れ替わる」が13名(19.7%)、「3~5年は大体継続している」が38名(57.6%)、「最近ほとんど入れ替わりがない」が10名(15.2%)、その他の回答として「長い人、短い人さまざま」3名、「系列園への異動があるが、勤続年数は長い」1名、「一度に数人も辞めることがある」1名などの記述があった。保育の職場

は5年程度で入れ替わると良くいわれるが、それを裏付けるような回答である。後述するような人間関係の問題や園の方針への疑問などから1～2年で退職したとしても他の園に転園したり、幼稚園から保育園に移動したりなどして、通算すれば保育職としての勤続年数はそれほど短くないとも感じられる。結婚や出産等との関係については後述する。

(6) 園長のタイプや園長・園の方針について

園長のタイプとして2つの選択肢を用意したが、「園の保育全体に責任を負い、保育方針、内容などについて精通し、保育全体の管理・運営の実質的責任者である」を選んだのは34名・51.5%（私立幼稚園21名、私立保育園8名、公立保育園4名、公立幼稚園1名）であり、「経営者としての立場であり、保育の実質的責任は主任など別の人である」を選んだのは27名・40.9%（私立幼稚園13名、私立保育園13名、養護施設1名）であったが、その他に「高齢で年に1～2度しか園に来ないので分からない」が1名、N.A.不明の4名は、おそらくどちらかわからないのではないと思われる。回答結果は大局的には二分していると見ることができ、保育の実質的な責任を負っている園長の方が、経営者の園長を多少上回っていた。今回の調査結果では絶対数が少ないので全体的傾向かどうかは断定できない。

園長または園の方針に満足、納得しているかどうかについては「満足している」は18名と回答者66名の27%で「不満がある」が圧倒的である。その内容は複数選択で回答してもらったが、「行事中心の保育に思える」が24名（36%）と一位であり、二位は「方針に疑問が多く、意見が合わないとよく思う」19名（29%）である。三位は「園長がワンマンで人間的にも信頼できない」「子どものためより、親に迎合する保育に思える」が14名（21%）の同数で並び、次が「園の保育理念と実際の保育が一致していない」「子どもの自主性や自発性が無視されているように思える」がそれぞれ13名（20%）と続いている。「放任主義すぎると思う」は2名と少ない。その他としては園長が不在がちであること、障害児の受入れ体制の不充分さ、経営的な面が強いことへの疑問などが挙げられている。まだ就職して間もない若い目に映ったのは極く表面的で、軽率な見方も含まれているだろうが、新鮮な目で自分の理想とする保育とは違う現実につぶつかり、悩んでいる姿でもあるといえ

るだろう。保育の現場がこれらの新人の疑問や批判を受けとめ、さまざまな現実と条件のなかでいかに理想を実現していくか、ともに考えていただきたいものである。

(7) 職場の人間関係について

職場の人間関係については「非常にうまくいっている」は31名（47%）であり、「悩みがある」が34名（52%）と過半数であった。悩みの選択肢として用意した項目（複数選択可）のうち一位は「先輩に遠慮や気兼ねがあり、発言しにくい」で18名（37%）である。「先輩や同僚と意見があわずやりにくい」も9名（19%）ある。身分は同じ保育者であっても先輩・後輩の上下関係が職場の秩序を強く支配している場合、先輩への遠慮や気兼ねは新人に相当なストレスをもたらしていると考えられる。つぎは新人としての悩みともいえる「指導者や助言者がいない」「仕事の悩みなど相談相手がない」が各々4名9%と同率で続く。「仲間はずれにされているように思える」「気の合う仲間がない」などは3名ずつであり、「職場上のつきあいが多く、もっと自由にしたい」は2名と少数であった。その他は園の職員間などに派閥的な対立を感じたり、複数の先輩から異なることを言われて「どうしてよいかわからない」などの悩みが記述されている。（図-5）

(人)

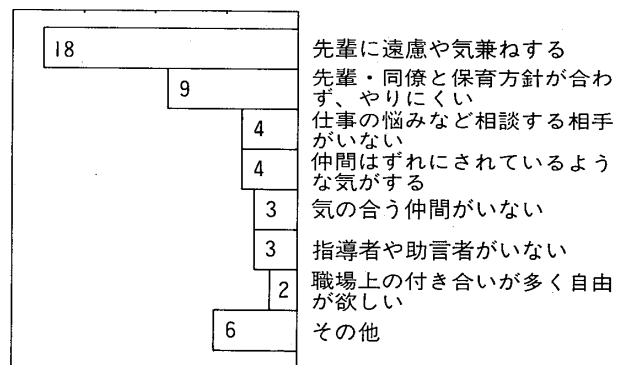


図-5 職場における人間関係の悩み(「悩みあり」の述べ49名)

わが国の保育者の職場ストレスの特徴として、「人間関係」の重みが大いという調査結果(佐藤俊昭・S.Keskinen「日本とフィンランドの保育者の職場ストレス」)を思い起こすとき、以上のような保育職に就いて間もない新人保育者にとっても職場の人間関係に関するストレスは非常に高く、保育職場の「雰囲気」を自由な発言の可能な、人間としてお互いを

尊重しあいながら仕事のできる場にしていくな課題は非常に重要であるといえる。

また、全国保母養成協議会専門委員会の調査報告によれば、卒業後2年で退職した理由の一位は「園の方針に疑問や問題を感じたから」であり、二位が「体の具合が悪くなったから」三位が「職場の人間関係がうまくいかなかったから」であった。二位の健康問題は労働条件や環境の問題としても重要であるが、人間関係のもつれや精神的ストレスが健康を害する事につながる場合もあり、保育職における人間関係能力の問題を避けてとおることはできないと思われる。養成の課題としてこの点をいっそう深く考える必要があるのではないだろうか。

次に、卒業生たちが保育者としての自分自身について、また現在と将来についてどのような意識をもっているかに関する回答もみよ。

(8) 保育職に就いて2年目の現在、自己の能力や自信について

この問いに対して、「自己の能力を存分に発揮して自信をもって保育をしている」と回答した者は、3名(4.5%)、「時々能力不足や自信喪失に陥る」46名(69.6%)「保育者としての能力や自信が持てず、いつも悩んでいる」8名(12.1%)「自分のことはよくわからない」2名(3%)「その他」5名(7.5%)であった。その他の回答には「能力を発揮する場がない」3名、「能力を発揮した悩むの繰り返し」1名、「勤務1年目に全てに自信をなくした」1名であり、全体の95.5%は何らかの能力不足や自信喪失に陥っている、といった姿が浮かび上がった。おおかたの卒業生は勤務1年目を夢中で過ごし、2年目ともなると多少責任のある仕事も任せられ、後輩を迎える場合もあり、このような高い率での不安となって表れたことと思う。この時期を乗り越えた者が自信や能力発揮につながり保育への使命ややりがいを見

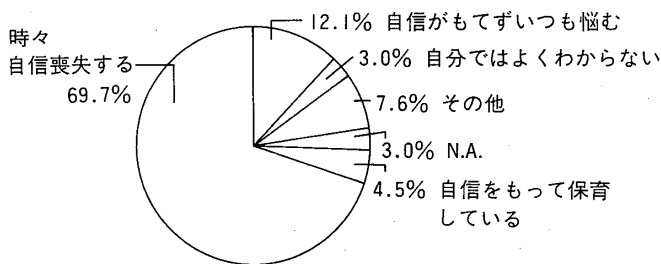


図-6 保育職に対する現在の自分の能力・自信について

いだせるといえよう。厳しいが頑張ってもらいたい。

(9) 「自信が持てない」と回答した者(66名中63名)には、具体的にどのようなことがらに特にそれを感じるか、複数回答で答えてもらった。その結果は以下の通りである。

表-1 保育に自信が持てない理由

順位	理由	回答数(%)
1位	子どもにとって本当に良い保育を行っているのか不安	46 (29.3)
2位	経験不足を感じる	28 (17.8)
3位	問題を抱えた子どもの指導が難しい	27 (17.1)
4位	集団と個の指導のバランスが難しい	15 (9.6)
5位	設定保育と自由保育の指導が難しい	11 (7.0)
6位	保育技術(ピアノや体育など)が劣っていると思う	9 (5.7)
7位	クラス全体を把握するのが難しい	6 (3.8)
〃	基礎的な学力不足を感じる	6 (3.8)
9位	その他	5 (3.2)
10位	子どもの気持ちがあつかめない	4 (2.5)

この結果を見ると、回答者63名中46名が「自分の保育に不安」を持っていた。先に述べたように経験2年目として当然の結果といえよう。それは2位の経験不足という回答からもうかがえる。

また「問題を持つ子の指導」や「集団と個」についてなど、子どもへの対応、それも学生時代に学んだマニュアル通りにいかず、その場での対応を必要とするものについて経験数が少ないため、どう対処してよいのか、あるいは対処の結果が本当に良かったのか、不安になるのであろう。9位の「その他」には経験豊富な先輩のクラスとの比較や親への対応、などがあげられていた。

(10) 「保護者との関係、親への対応について、悩むときがあるか」の間についての結果は、「あまりない」29名(43.9%)、「ときどきある」30名(45.5%)「よくある」7名(10.6%)であった。回答者66名中37名(56.6%)と半数以上が悩んでいる。その内訳は以下の通りであった。

(11) 保護者との関係についての悩みの内容

表-2 保護者との関係で悩むことがあるか カッコ内(%)

	幼稚園	保育園	施設	合計
あまりない	17(43.6)	11(42.3)	1(100)	29(43.9)
ときどきある	19(48.7)	11(42.3)		30(45.5)
よくある	3(7.7)	4(15.4)		7(10.6)
合計	39(100)	26(100)	1(100)	66(100)

幼稚園と保育園による悩みの比較差はあまりないようである。

わが国の幼児を持つ母親の典型的傾向といえる過保護、過干渉の親についての対応が、悩み総数64(37名、複数回答)中31.3%である。過保護、過干渉について理論的に学んではいても、ベテランの親に対して育児経験がない若い保育者が、思っても言えない、聞いてもらえないなどの実情が目につく。

保護者会や電話など話し方についての悩みも悩みの総数の32.8%である。園の保育に無関係な親への悩みは14.1%である。

「その他」には

- ・ 2人担任制で、片方の先生の悪口を言われる。
- ・ 子に何かあるとすぐ園で何かあったのではないかと、思い込みが激しい親への対応。
- ・ 保育の専門的なことを質問されても適切な答えができない。
- ・ 園での子どもの姿を親が知らなすぎる。
- ・ 子どものことについて話をしても聞き流してしまう親への対応。
- ・ 家庭内に悩みを抱えている親への適切なアドバイスができない。

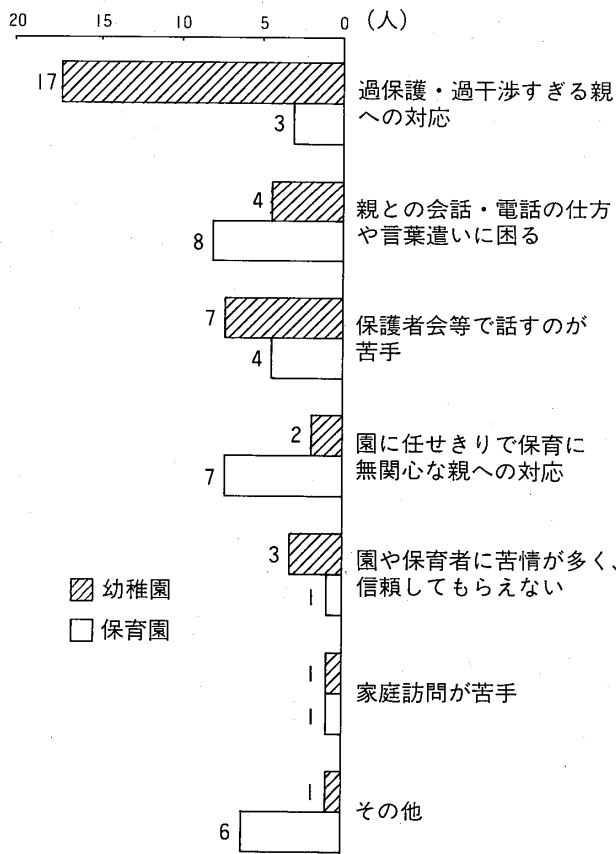


図-7 保護者との関係についての悩み

等々、現実と直面し困惑している姿がある。現場で学ぶことが多いとはいえ、このような悩みは子どもへの対応とは異なり、経験の浅い保育者をより悩ましていくといえよう。今後保育科でもより指導法科目の中で重視していかねばなるまい。

また悩みの内容を幼稚園と保育園に分けてみると(図7)「過保護・過干渉すぎる親への対応」は幼稚園が、「無関心な親への対応」は保育園の方が多い。ここには幼稚園と保育園の親の意識差が反映されているといえよう。

(12) 「勤務してから園の内外を含め研修の機会があるかどうか」については、

「充分にある」が39(59.1%)、「あまりない」23(34.8%)、「一度もない」4(6.1%)と研修の機会を充分与えている園が上回っている。幼稚園と保育園の比較では、「あまりない」の回答がやや幼稚園の方が多いようである。(表-3)

(13) 「どんな研修を望むか」の自由記述回答の結果をまとめてみると次のような傾向が見られた。(回答総数52)(表-3)

表-3 研修の機会について

	幼稚園	保育園	施設	合計
充分ある	23(59.0)	16(61.6)		39(59.1)
あまりない	15(38.5)	7(26.9)	1(100)	23(34.8)
一度もない	1(2.5)	3(11.5)		4(6.1)
合計	39(100)	26(100)	1(100)	66(100)

回答総数の半数を占める実技講習会の内容は、合奏、リトミック、エプロン・シアター、パネル・シアター、ゲームや集団あそび、絵本の読ませ方、手あそび、廃品利用の玩具の作り方、造形活動、など日々の保育に直接関わるものが多い。

表-4 どんな研修を望むか (人数)

実技講習会	25
障害児、総合保育、問題児	8
他園見学、情報交換	8
子どもの心理	3
保険(病気や怪我の処置)	2
保育内容(ことば、環境など)	2
行事(運動会やゆうぎ会)	2
保育者自身の向上、リフレッシュ	2

レパトリーが広くないと種切れとなってしまうからであろう。また指導書などでは判りづらく、直接の指導が理解も早く即、活かせるからであろう。

また障害児や総合保育については、該当する子どもを担任しての要望が多い。他園見学や情報交換では、他園の先生達と話し合いたい、経験豊かな先輩の話を知りたい、など自園のみでは不満や視野を広めたいなどからの要望が強いように思えた。

(14) 恋愛・結婚について

女性ばかりといっても過言ではない保育職場では、結婚相手を選択する機会が少ないと思われるが、「恋愛や結婚の相手が見つからない」の選択肢を選んだのは21名(32%)であり、すでに「結婚を約束した相手がいる」は12名(18%)、「恋人、ボーイフレンドがいる」は17名(26%)であり、この調査結果では、相手がいる方が上回った。なお「現在は仕事のことではいっばいで恋愛や結婚のことは考えられない」を選んだ5名(8%)や、その他に「特に気にしていない」「同期や先輩とよく話をする」「仕事だけでは気が狂いそうなのでほどほどに」等の回答があった。調査対象者はまだ年齢も22歳前後で若く、それほど切実な問題とは感じていないように思われる。

(図-8)

(15) 結婚と仕事の両立について

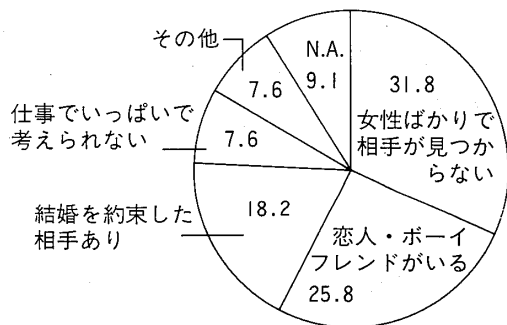


図-8 恋愛・結婚について

次に結婚したり、出産したりすることと保育の仕事と両立することについての意見を尋ねた。この卒業生たちは在学中に入学時と卒業時の二回、意識調査を実施しており、その中に保育継続意識についての項目がある。それらと今回の結果を比較し、在学中と実際に就職してからの意識の変化を見てみたい。

まず入学時には17.9%が「結婚するまで」、6.0%が「出産するまで」、「一時やめて子どもが大きくなったらまた働きたい」が55.6%、「生涯の仕事として

	結婚まで	出産まで	再就職	継続	わからない
入学時(92年)	17.9	6.0	55.6	8.5	12.0
卒業時(94年)	26.7	5.9	36.3	10.4	19.3
現在(95年)	19.7	18.2	34.9	12.1	15.1

図-9 入学時、卒業時、卒業後2年目の保育職継続意識(%)

続けたい」が8.5%、「まだわからない」が12.0%だった。卒業時には「結婚まで」が26.7%と10%近く増加し、「出産まで」は5.9%とほとんど変化なし。

「再就職型」は36.3%と約19%の減少で「生涯継続」は10.4%と2%増加。「分からない」は7%の増加だった。入学時と卒業時の比較では、本校も日短協の全国調査においても「再就職型」が減少し、「結婚まで」が増加するという共通の傾向が見られた。卒業後2年目を迎えた本校卒業生の意識は次のように変化している。(図-9)

①「結婚・出産後も保育の仕事続けたい」

8名(12%)であり、卒業時よりも2%多かった。内訳は公立保育園勤務全員4名と私立保育園勤務の4名である。前者は継続したい理由として「ずっと続けたいと思ったので公務員を選んだ。この仕事に誇りを持っている」「仕事をやめたら一人の稼ぎでは食べていけないし、産休・育休がきちんとあるから」(結婚を約束した相手もいる)「小さい頃の夢だったし、資格を取って折角なれたので、本当は子どもが小学校位になるまで一時休みたいが、再就職するのは難しいから」「保母という仕事をずっと続けていきたいし、子どもができればまた違った保育ができると思うから」とそれぞれ記述している。保育職への情熱、継続可能な条件のある公立職場、現実的な経済的理由、再就職の困難を見通してなど、4名の意見はそもそも公立職場を選んだのが継続したいからでもあることがわかる。

後者の私立保育園勤務の4名は「自分の園に出産後も仕事を継続している先生方が多いので自分もそうしたいと考えている」「今の職場は仕事と家事を両立できる環境が成り立っている。実際沢山の若い先輩たちも(双子を産んでも)両立して頑張っている姿を見て感心してしまう。先輩たちは自分の子を自分の仕事場で見てもらっているが、自分も子どもができたなら他の先生たちに見てもらってほしいから」「今現在保母という仕事がとてもやり甲斐があ

り、充実しているから」「この仕事にやり甲斐を持っているし、楽しいから」である。実際に継続の可能性を目の当たりにして、自分も続けようと思いを動かされていることがよくわかる。とくに二番目の自分の子どももこの保育園で育てようと思うという卒業生は、卒業時に就職した幼稚園では朝7時から夜8時まで仕事という日々で、過労で健康を害したが、代替者がいないため病院通いもままならず、入院にまで追い込まれ、ついに退職し、有給休暇などの制度がある現在の職場に転職した卒業生である。

以上の8名の職場はすべて恵まれているわけではなく、忙しくて人手不足と感じられたり、腰痛になったり、「疲れたと感じることや調子の悪いことが多くなった」とする者もあり、休みを取りにくいと訴えるが、1名を除けば、園の保育方針にはほぼ満足している者がほとんどで、職場の人間関係も「非常にうまくいっている」と感じている。

「生涯継続」して働きたいと考えているのは、就職後も入学時からの初心を貫いている卒業生と、就職後、職場の環境からも励まされて継続意識を強めた卒業生たちといえそうである。以下に述べる結婚退職や出産退職の希望者の勤務環境と比べると8名は相対的には働き続けられる環境にいるといえるだろう。幼稚園勤務者が一人もいなかったことから幼稚園が生涯継続の困難な職場であることを示唆しているようにも思われる。

## ②「結婚しても出産まで仕事を続けたい」

これを選択したのは12名(18.2%)であり、卒業時の割合と比べると3倍である。卒業時には結婚したら辞めようと考えていたが、いざ働いてみて出産まで続けることにした卒業生たちが多いということであろう。理由をみると、「結婚退職はしたくないが、自分の子どもが生まれたら自分で育てたい」という育児専念タイプと、本当は働き続けたいが「産後復帰する人はいなくて、とうてもできそうにない」という諦めタイプに分かれる。前者は「忙しいときもあるがまあまあ」か「適当」と感じる仕事量で、園の保育方針にも多少不満はあるが、まあ満足しているのだが「じっくり子どもと向き合って余裕を持って時間に急かされずに子育てをしたいから」出産退職を望んでいるのである。彼女たちには、出産して実際の育児に直面した時に「ゆとりのある子育て」が実現できるかどうかを疑ってみる意識はまだなさ

そうである。

諦めタイプのひとは、職場に子どもを保育園に預けながら仕事をしている先輩がいるが、大変そうで、自分は子どもに時間を費やしたいと記しており、前述の継続型が先輩から受けた影響とは反対の印象を持っている。また「出産まで仕事をしたいが、今の職場は残業その他時間がルーズでその後はとても続けられそうもない」というのが諦める大方の理由であるが、「できることなら自分の子どもも育てて保育者をするのが良いのではと思う」と育児経験が保育者自身にプラスになると考えている者もある。この回答者は、条件が整えば出産後も保育者として働き続ける可能性があるといえよう。

## ③「出産まで働き、子どもが育ったらまた保育者として働きたい」

この回答は5名(7.6%)であった。私立幼稚園勤務が2名、私立保育園勤務が3名であるから「忙しい」と感じる職場で働きつつも「保育の仕事は好きだし、やり甲斐があると思う」から子育てが済んだら復帰したいという再就職型である。このなかには「今の職場の勤務状態では子どもを育てていくのは不可能だと思う。育児休業がないので一度辞めて、様子を見て他の現場で働きたい」とする者がある。育児休業法がまだ現場に根づいてないことを知らされるが、同時に権利意識の不足も感じさせられる事例である。

## ④「専業主婦となり、子どもが育ったらまた保育者として働きたい」

前者とよく似た再就職型であるが、こちらの方が13名(19.7%)と俄然多い。「保育の仕事が楽しいので働くのならやはりこの仕事がしたい。でも自分の子どもは自分で育てたい」というわけである。このタイプは私立幼稚園勤務者がほとんど(1名のみ私立保育園)である。仕事の量としては「忙しい時もあるがまあまあ」が8名、「忙しすぎる」が3名、「適当」が1名である。

## ⑤「結婚したら保育以外の仕事をしたい」

理由は「今の園では時間、体力的に続かない」など仕事と家庭の両立が無理と感じている4名(私立幼稚園勤務3名と地方公立幼稚園勤務の1名)、「異なった視野で社会を見つめてみたい」1名(私立幼稚園)で、合わせて5名(7.6%)である。

③と④と⑤を「再就職型」意識として合わせると



約35%で卒業時とあまり変わらない。

⑥「専業主婦になると思う」

13名(19.7%)であり、卒業時からは約7%減少して、入学時の割合に近づいた。私立幼稚園勤務が8名、私立保育園勤務が5名である。「仕事と家事の両立の自信がない」「どちらも中途半端になる」「残業が多いなど今の職場ではとても両立は無理」「子どもは自分の手で育てたい」などが主な理由である。

⑦「結婚相手の意向により考えたい」

「家事と両立できるか不安」という者、「相手の仕事による」者、「専業主婦になりたいが、経済的に無理なら働かなくてはならない」と考える者、「結婚を約束した相手の勤務先の都合でどうなるかわからない」者など7名(10.6%)の意見は様々であるが、自分の意志よりも相手の状況に合わせていかざるを得ないという意識が強いタイプであるといえよう。現実的なタイプと考えることもできるが、そのような女性の立場の弱さについてどう考えるか聞いてみたくなる。

⑧その他

体力的にいろいろ迷う者、まだわからない者、回答しない者の3名(4.5%)である。

⑦と⑧を合わせて「まだ分からない」に分類して卒業時と比べると10名(15.1%)と約4%減少している。

以上のようにそれぞれの将来の意識をみたが、保育職の魅力は捨てがたいものがあり、なんとかして機会があれば勤めていたいと考えている者が圧倒的である。その意欲を活かすことを阻んでいる勤務条件や環境をこそ改善したいものである。

最後に実際に保育の仕事をしてみて本校でもっと充実して欲しかったことや特定研究について、後輩へのアドバイス、現在の心境などをまとめてみた。(16) 卒業して2年目、現場を経験して駒沢の保育科でもっと充実してほしい内容について

②の充実してほしい内容のあるもの54名の総回答数は125件にものぼった。その内訳は、実技系…100、実習…14、基礎理論…8、保育内容…2、その他…1である。

表-5 本科への要望のあるなし

①今のままで充分充実していると思う者	2名
②充実してほしい内容があると思う者	54名
③記述なし	10名

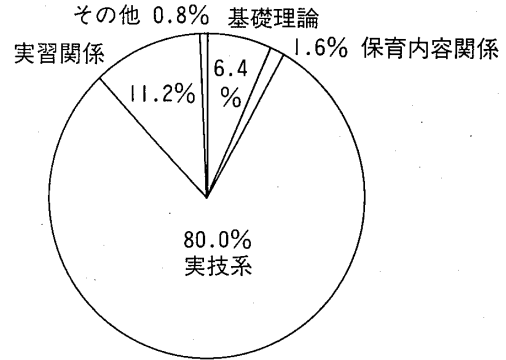


図-10 本校の保育科で充実してほしい内容

(図-10) 以下その詳細を紹介する。

①実技系の授業への要望、100件の内訳

- ・ゲーム、あそびに関するもの…28  
手あそび…17、ゲーム…6、遊び方(あやとりなど)…3、グループあそび…2
- ・実演関係…28  
パネルシアター…11、エプロンシアター…9、ペープサート…4、人形劇…2、劇あそび…2
- ・造形活動…19  
制作技術…9、折紙…9、カードづくり…1
- ・音楽関係…14  
リトミック…7、歌の指導法…3、ピアノ(歌謡など)…2、合奏法…1、楽譜の読み方…1
- ・体育、身体表現…7  
幼児の体育指導(プール指導、鉄棒や跳び箱の指導法)…6、フォークダンス…1
- ・絵本・紙芝居…4  
絵本の読み聞かせ方…3、紙芝居の仕方…1

②実習に関する要望 14件の内訳

- ・見学学習をもっと増やしてほしい(園数を)…4、
- ・乳児への実習を増やしてほしい(おむつの替え方、沐浴の仕方など)…4
- ・実習日数を増やした方がよい…2
- ・指導案の書き方…1
- ・責任実習を増やしてほしい…1
- ・部分実習を増やしてほしい…1
- ・自分の勤務園に今年来た実習生の礼儀がなっていない、恥をかいた…1

③基礎理論講義への要望 8件の内訳

- ・小児保健関係(水いぼやとびひの対応や処置)

… 3

- ・ 社会福祉関係… 2
- ・ 発達心理関係… 2
- ・ 保育原理… 1

④保育内容関係 2件の内訳

- ・ 言葉… 1
- ・ 人間関係… 1

⑤その他 1件

- ・ 現場で活用できる本（保育やカリキュラムに関するもの）を学生時代に購入できるように紹介してほしい… 1

(17) 在学中に「特定研究」をしたかどうか、と「特定研究」は卒業後役立つと思うか、の結果

この結果から見ると特定研究をしたものは、役立つと回答したものが圧倒的に多く、しなかった者

表-6 「特定研究」について (実数)

特定研究	役立つ	役立たない	わからない	NA	合計
した(理論)	14	1	4		19
した(実演)	16	0	7		23
しなかった	2	2	16	4	24
合計	32	3	27	4	66

は、わからないと答えている数が多い。当然といえば当然の結果かもしれないが、研究をした者、しなかった者、両者役立たないと思っている者は3名である。またコメントとして特定研究、ボランティア、幼保両免許など、とにかく貪欲になんでもしておいた方が良い、という意見もあった。

(18) 後輩達にアドバイスしたいこと、学校や先生達に教えてほしかったこと、現場に出て感じること、について

この項目は自由記述形式であるが、記述しなかった者は14名のみであった。記述した54名のほとんどが、記述欄にびっしりと記入していた。中には裏面を利用して現状の報告と同時に逆にアドバイスを希望するもの、現在の悩みや不安を面々と訴える者、誰にも相談出来ず悶々としていた事柄をこのときと

ばかり書き連ねたもの、など教師に対する懐かしさと同時に厳しい職場で悩み苦しみながらも、子ども達の笑顔や信頼に励まされ頑張っている新米保育者の姿があった。卒業後のケアの必要性を痛感する内容も多かった。そのような記述を区分するのは難しかったが、一応上記3項目を分類してまとめると下記のような傾向であった。

1. 後輩達にアドバイスしたいこと

アドバイスの内容は多い順に挙げると(1)実習に関するもの、(2)保育者としての心構え(3)就職に関するもの、(4)学生時代に関するもの、に大別される。

(1)実習に関して

「実習はとても大切」と述べ、「実習日誌は細かく付けておくと現場での参考になる」「実習中は恥ずかしがらず質問した方が良い」などのテクニックを書いているものと、後輩が実習にきての苦情のようなものがあつた。たとえば「返事、挨拶、礼儀などの常識がない」「言葉遣いが悪い」などである。

(2)保育者としての心構えについて

「健康が第一」が2名であったが、その内の1名は、「保育の仕事は体力、気力、健康です。それだけ取り柄と思っていた私でさえ、思わぬ病気にかかり、主任から文句を言われ、40度の熱でも出勤しなければならなかった」という実例を書いていた。

また「笑顔を絶やさぬこと」「学校で学んだことより現場で学ぶことの方が多い」「自分の自由な時間が学生時代より減る」「何か技(手品、手あそびなど)を持っていた方が良い」「1年経つと経験者と見られてしまうので沢山のことにチャンレジしておいてほしい」など実感を込めたアドバイスが多かった。

(3)就職に関して

実習園からの誘いについて、「すぐ決めないで一度冷静になって考えた方がよい」「実習中は自分に合わないことが見えない場合がある」「先輩などから口こみで良く調べたほうが良い」などのアドバイスがあった。また就職活動は「失敗しないよう焦らないこと」「就職選びは慎重に」「就職先はじっくり選ぶこと」「求人票だけで選ばず中に勤務している人に問い合わせること」など表現は多少異なっても、すぐ決めて、就職してから後悔しても間に合わないというものがほとんどであった。その中の一人は、「今年度で辞めたいと思っている」と述べていた。

#### (4) 学生時代に関して

「学生時代のノートやプリントは、大きな財産だから大切にするように」「アルバイト、サークル活動などなんでも経験しておいたほうが良い」「幼保両免を出来るだけ取得しておくように」「就職すると他園を見学するチャンスがなかなかないので、できるだけいろんな園を学生時代に見学しておくように」などである。

#### 2. 学校や先生に教えてほしかったこと

「駒沢で学んで良かった」「他校に負けない」「先生方に感謝している」「駒沢で学んだことで無駄なことは一つもなかった」などの言葉と同時にかなりの注文もあった。

#### 3. 現場に出て感じること

「保育者になって良かった」「やりがいがある」「誇りに思う」など大変ではあるが充実していると答えた者は4名であった。また「職場の人間関係が良くない」「保護者から苦情が多く悩んでいる」が各2名ずつあった。「保育方法に疑問や迷いがある」「園長に不満」「園長や主任がプライベートなことまで口出しする」「学生時代の夢とは違っていた」など多少表現は異なるが、戸惑いや不満の声も多い。本人の未熟さもあるだろうが、問題のある園もかなりあるようである。

次の言葉は健気に頑張る卒業生の意識を代表しているのではないだろうか。「納得のいかないことも沢山あるが、自分の考えをしっかり持ち、経験者の良いところを盗み、悪いと思うことは真似ないで、向上心を失わないようにしている。子どもを通して得ることは、保育だけでなく自分自身の人間性にもつながる。社会は厳しく出てみないと判らないことが多くあった」

#### おわりに

以上のように、卒業生の意識調査の結果として、卒業後の動向、勤務条件・環境、現在の保育者としての悩みや意識、自分自身の将来について、保育科に望む事、そして最後に後輩へのアドバイス、学校への希望、現在の感想や意見の自由記述とそれぞれの回答結果を述べてきた。卒業生が現場でさまざま

な条件の下で保育の仕事に若い情熱を傾けて努力している姿が目につかぶ内容であった。忙しい時間を割いて調査に協力していただいた卒業生に感謝したい。

保育者養成の立場にいる私たちには、卒業生たちから多くの課題が与えられたが、なかでも充実して欲しいという声の多い実技系の授業や実習関係については、全国保母養成協議会の保母養成校卒業生の就業調査の結果においても全く同様の結果が出ており、とくに卒業後2年目でこれらへの要望が高い。卒業生たちが現場の保育活動でまず直面するのがさまざまな実技の必要性なのであろう。その点では2年間の在学中に学べるものは限られており、レポーターがすぐ底をついてしまうと予想できる。その先は自分自身で拓けるしかないわけであり、また実技のレポーターが沢山あれば良い保育ができるわけでもない。先の全国保育養成協議会の調査結果においても卒業後6年目となると人間観や発達論などの基本的な力をつけたかったという声が増えていく。今後の卒業生たちの成長を期待したい。

また今回の調査用紙の自由記述欄や回答用紙の裏にまで面々と書き綴られた現状報告や悩み、意見に驚かされたが、卒業生たちが、さまざまな問題を感じながら、それらを表明する場もないままに過ごしていることがよくわかる内容であった。若い保育者たちはもっと自由に発言し、悩みを語り合う友人や助言を受ける場を切実に求めているのではないだろうか。養成校として卒業生が何時でもたずねて来れるオープンな雰囲気を持っていたいものである。

卒業生対象の調査は今回が初めてであったが、さまざまな側面からの卒業後の姿が浮き彫りになり、有意義であったと考える。この調査は今後も継続し、卒業後のすがたを追いかけてみたいと考えている。また、今回は回収数が少ないため分析しなかった保育者像と自己像については継続して調査し、後日に発表したい。

## 参考文献・資料

- 1) 高木庸一・天野珠子・福川須美「保育科学生におけるライフスタイルの変化」駒沢女子短期大学「研究紀要」第26号 1993
- 2) 宮崎恵・天野珠子・福川須美「保育科学生におけるライフスタイルの変化」駒沢女子短期大学「研究紀要」第27号 1994
- 3) 福川須美「意識調査から見た保育科の学生像・その3」駒沢女子短期大学「研究紀要」第28号 1995
- 4) 天野珠子「保育者イメージと自己イメージの調査(その3)」駒沢女子短期大学「研究紀要」第28号 1995
- 5) 全国保母養成協議会専門委員会「保母養成校卒業生の就業実態と養成の課題」(保母養成資料第12号) 全国保母養成協議会 1994
- 6) 佐藤俊昭・Soili Keskinen「日本とフィンランドの保育者の職場ストレス」「保母養成研究」第12号 1994
- 7) 全国保母養成協議会専門委員会「基礎技能・保育実習に関する研究」(保母養成資料集第18号) 全国保母養成協議会 1995

卒業後の仕事に関するアンケート調査 (1枚目)

平成7年9月

卒業後の仕事に関するアンケート調査

※該当する箇所の番号、全てにマルをしてください。また記述欄には記入してください。  
該当箇所の「その他」にマルをした場合には、具体的に書いてください。

平成6年3月卒業 卒業時のクラス、美善真 聖 氏名

- 1 卒業時に勤務した園に現在も勤めていますか。  
 (1) はい  
 (2) いいえ①退職 理由…1.結婚 2.出産 3.園の方針と合わない 4.体力的に無理  
 5.その他 ( )  
 ②転職先 1.幼稚園 2.保育所 3.施設 4.一般企業 5.その他 ( )  
 転職の理由…

以下、卒業時に勤務した園についてお答えください。

- 2 勤務園の種類  
 1.幼稚園 (1)公立 (2)私立 (3)その他  
 2.保育所…(1)公立 (2)私立 (3)その他 ( )  
 3.施設…(1)養護施設 (2)障害児 (者) 施設 (3)乳児院 (4)その他 ( )

- 3 勤務園の状況  
 1.総園児数… 歳児～ 歳児約 名 2.総クラス数… クラス  
 3.クラス人数 約 名 (1)複数担任制 (2)一人で担任  
 4.クラス組織…同年令児 年令混合 ( )

- 4 園長について  
 1.園の保育全体に責任を負い、保育方針、内容などについて精通し  
 保育の管理・運営の実質的責任者である。  
 2.経営者としての立場であり、保育の実質的責任者は、主任など別  
 の人である。実際の保育には、あまり携わっていない。  
 3.その他 ( )

- 5 園の教職員組織  
 1.常勤保育者 名 2.その他の職員 名  
 3.臨時、アルバイト他 名

- 6 あなたの担当は  
 6年度、 歳児 名の1.担任 2.複数担任の一人 3.助手  
 4.その他 ( )  
 7年度、 歳児 名の1.担任 2.助手 3.複数担任の一人  
 4.その他 ( )

- 7 あなたの雇用条件は  
 1.正規に幼稚園教諭として採用された。  
 2.正規に保育士として採用された。  
 3.非常勤、アルバイトとして採用されたが、その後常勤となった。  
 4. 々々々 採用され、現在にいたっている。  
 5.その他 ( )

- 80 給料、手当、などについて満足していますか。  
 1.満足 2.やや不満 3.不満  
 80 2. 3にマルをした人は、どのような点が不満なのか、書いてください。  
 (1)給料について ( )  
 (2)賞与について ( )  
 (3)手当について ( )  
 (4)その他について ( )

- 90 休暇について、  
 1.満足 2.やや不満 3.不満  
 90 2. 3にマルをした人は、どのような点が不満なのか、書いてください。

- 10 仕事量について  
 1.適当  
 2.忙しい時もあるが、まあまあである。  
 3.忙しすぎる。(1)残業が多い、朝が早いなど  
 (2)家に持ちかかえる仕事が多い  
 (3)その他

- 11 教職員の異動  
 1.1～2年で入れ替わりがはげしい。  
 2.3～5年ほどはだいたい継続勤務している。  
 3.最近、ほとんど入れ替わりがない。  
 4.その他 ( )

- 12 あなたの園は、仕事の量と職員数のバランスがとれていると思いますか。  
 1.ちょうど良いと思う。  
 2.人手不足だと思う。理由…  
 3.わからない

- 13 園または、園長の方針への疑問 (複数回答…可)  
 1.保育方針に満足、納得している。  
 2. 々々 不満がある (以下に答えてください。複数回答…可)  
 (1)園、園長の方針に疑問が多く、意見が合わないと思う。  
 (2)園長がワグマンで人間的にも信頼できない。  
 (3)園の保育理念と実際の保育が一致していない。  
 (4)子どものためより、親に迎合する保育に思える。  
 (5)行事中心主義の保育に思える。  
 (6)子どもの自主性や自発性が無視されているように思える。  
 (7)放任主義すぎると思う。  
 (8)その他 ( )

- 14 職場の人間関係について  
 1.非常にうまくいっている。  
 2.悩みがある。(以下について複数回答…可)  
 (1)先輩教諭・保育士に遠慮や気兼ねがあり、発言しにくい。

卒業後の仕事に関するアンケート調査 (2枚目)

- (2)先輩や同僚と保育方針が食い違ふことが多い。 やりにくい。  
 (3)仕事の悩みや相談など、安心して話しあえる人がいない。  
 (4)指導やアドバイザーしてくれる人がいない。  
 (5)職場上の付き合いが多く、もっと自由にしたい。  
 (6)仲間はすれにされているように思える。  
 (7)気の合う仲間がいない。  
 (8)その他 ( )
- 150 保育職について2年目の現在、自分の保育者としての能力・自信について  
 1.自己の能力を存分に発揮して自信をもって保育している。  
 2.時々、能力不足や自信喪失に陥ることがある。  
 3.保育者としての能力や自信が持てず、いつも悩んでいる。  
 4.自分のことは、良くわからない。  
 5.その他 ( )
- 151 2～5にマルをつけた人は以下にもお答えください。(複数回答可)  
 1.子どもの気持がつかめない。  
 2.子どもにとって本当に良い保育を行なっているのか不安。  
 3.保育技術(ピアノや体育など)が劣っていると思う。  
 4.クラス全体を把握するのが難しい。  
 5.問題を抱えた子どもの指導が難しい。  
 6.集団と個の指導のバランスが難しい。  
 7.既定保育と自由保育の指導法が難しい。  
 8.基礎的な学力不足を感じる。  
 9.経験不足を感じる。  
 10.その他 ( )
- 160 保護者との関係、親への対応に悩むことがありますか。 3.よくある。 2.ときどきある。 1.あまりない。  
 161 2. 3にマルをつけた人は、以下にもお答えください。  
 1.園や保育者に注文や苦情が多い。信頼してもらえない。  
 2.園にまかせっきりで保育に無関心な親への対応。  
 3.過保護、過干渉すぎる親への対応  
 4.保護者会、母の会などで話すのが苦手。  
 5.親との会話や電話の仕方、ことばづかいに困ることが多い。  
 6.家庭訪問が苦手  
 7.その他 ( )
- 170 研修について 1.研修(園内、園外)の機会は充分ある。 2. あまりない。 3. 一度もない。  
 171 あなたは、どんな内容の研修が必要だと思いますか。(自由記述)
- 18 健康について 1.卒業してから現在まで健康である。  
 2.疲れたと感じることや、調子の悪い事が多くなった。  
 3.就職してから健康を害した。  
 (具体的に)は… ( )
- 19 恋愛・結婚について  
 1.女性ばかりの職場で恋愛・結婚の相手が見つからない。  
 2.恋人またはボーイフレンドがいるが、秘密にしている。  
 3.結婚を約束した相手がいる。  
 4.すでに結婚している。  
 5.現在は仕事のことだけで一林で恋愛や結婚のことは考えられない。  
 6.その他 ( )
- 190 結婚と仕事の両立について  
 1.結婚しても保育の仕事が続けたいと思う。  
 (1) 出産まで (2) 出産後も  
 2.結婚したら保育以外の仕事をしたい。(パート、家業 など)  
 3.専業主婦になりたいと思う。  
 4.専業主婦となり、子どもが育つたまたまた保育者として働きたい。  
 5.結婚相手の意向により考えたい。  
 6.結婚するつもりはない。  
 7.その他 ( )
- 191 1～7のいずれの場合も、それはどうしてですか。  
 20 卒業して2年目、現場を経験して以下のことにお答えください。  
 0 現状の保育科でもっと充実してほしい内容は(該当箇所のみ記入)  
 (1)基礎理論講義(例えば )  
 (2)保育内容関係の講義(例えば )  
 (3)実技系の授業(例えば )  
 (4)実習関係(例えば )  
 (5)その他(例えば )  
 0 在学中に「特定研究」をしましたか。 1.はい (0)理論系 ②実技・実演系 2.いいえ  
 0 特定研究は、卒業後役立つとおもいますか。 1.はい 2.いいえ 3.わからない  
 0 後輩達にアドバイザーになりたいこと、学校や先生方に教えてほしいこと、その他現場に出て感じる、現在の率直な感想や意見を書いてください。